

北広島市保健福祉計画検討委員会  
第1回 高齢福祉部会

日 時：平成28年2月18日（水） 18時30分～

場 所：北広島市芸術文化ホール 2階 活動室3

◇北広島市保健福祉計画検討委員

出席者：三瓶委員（部会長）

安孫子委員

上原委員

遠藤委員

島谷委員

土田委員

三木委員

欠席者：對馬委員

傍聴者：0名

◇事務局 三上高齢者支援課長

大坂高齢者支援課主査

川口高齢者支援課主査

浜山高齢者支援課主査

渡邊高齢者支援課主査

《議事概要》

1 開会

2 部会長挨拶

3 協議事項

委員：高齢者人口が増加しているのに、老人クラブの会員数が減少傾向にあると思いますが、市としてどのように分析していますか。

事務局：ひとつは、老人クラブの加入年齢である 60 歳、65 歳の方は今も現役でお仕事をされている方が多いということで、加入者が増加しないという実態があります。

もう一点は、老人クラブの活動に変化がないことがあります。老人クラブに、皆さんが望む活動内容に変化していかないと加入者の増加にはつながらないとお伝えしているところです。市としても、いろいろな場面で老人クラブの活動などを紹介し、会員、会の増加につながるようにはしています。

委員：ミニデイサービスなどを各地域で実施していると思いますが、今行っている事業が、どのようにすれば総合事業に移行できるのか？

また総合事業をやってみたいという団体がどこに相談をするかわからないところが多いように思われます。今後とも市のほうで丁寧に説明、指導を行うように勤めてほしい。

事務局：総合事業にどのように移行するかということで、ミニデイ、老人クラブを対象に説明会を行っています。個別の相談についてはこれから実施していく予定です。積極的に相談を受けて、総合事業の移行を進めていきます。

委員：介護事業所を拡充していくとしているが、西の里地区にある事業所が休止すると聞いている。今後整備する事業の運営を継続的に行えるだけの需要があると判断されていることと考えますが、地域の事業所の休止ということもあり、市としても今後の整備計画について、どのように考えているのかお聞きしたい。

事務局：西の里地区の小規模多機能事業所の休止については、市としても把握はしています。今後は、北広島市介護サービス連絡協議会などと連携をしながら利用者を増やしたいと考えています。今回休止する小規模多機能事業所については、需要がないということよりも、サービスの内容が利用者に理解を得られていないことが、課題と考えており、広報誌などをつかい、事業の普及啓発をはかり、新しくできる事業所のサポートをしていきたいと考えています。

委員：認知症カフェについて、立ち上げに市の助成があるのか。市内に認知症カフェをどれぐらい設置する必要があると考えているかお聞かせ願いたい。

事務局：立ち上げ助成については、実施しておりませんが、市の支援として、会場費の負担、参加されているボランティアさんが加入する保険の費用を負担しております。

このような取扱いとした背景としましては、市の力で事業の拡大を行うには限界がありますので、地域のみなさまの力をお借りして、認知症カフェの普及に努めたいと考えております。

整備目標としましては、日常生活圏域ごとに設定できるのが望ましいと考えています。

委員：認知症カフェは月 1 回ですか。

事務局：月 1 回以上としております。月 1 回以上行うこともできますが、定期的に決まった曜日等で実施し、認知症の方が通いやすいカフェとしての基準を設けています。

委員：認知症カフェという名称でない場所で、認知症でない方と認知症の方が集える場を作ることは可能ですか。

事務局：可能と考えます。現在実施している認知症カフェには、認知症の方およびその家族のみを対象としているカフェと認知症以外の方も参加できるカフェがあります。

(19 時 25 分閉会)